

事故は5段階に分けて評価し対応策を変えると効果的

－事故は損害の大きさでなく質で評価する－

■大きな事故は起こしてはならないか？

損害の大きな事故が起こると、現場の大きな失態であるかのように大騒ぎをする管理者がいます。もちろん、死亡事故のような重大事故は、家族対応も大変になり、管理者にとっては重大事件です。しかし、事故防止活動の評価においては、損害の大きさはそれほど重要なことではありません。もちろん、損害が拡大しないよう損害軽減策も必要ですが、損害の大きさは事故防止対策ではコントロールしにくいからです。転倒した時に足をぶつけるのか、頭部を強打するのかがコントロールが不可能なので、大きさと評価されても現場は困ります。事故は損害の大きさではなく、その質によって5段階で評価して、対応策を変えると効果的です。

事故の5段階評価を事故防止活動に取り入れよう

■防ぐべき事故と防げない事故の区分

まず、事故を防ぐべき事故と防げない事故に区分し、防ぐべき事故に対して的確な防止対策を講じられるようにします。更に事故をその質によって5段階に分けて評価し、対応策も5つに分けます。

防げない事故
過失のない事故

レベル5 ▶

どんな対策を講じても防げない事故

レベル4 ▶

専門知識・技術がないと防げない事故

防ぐべき事故
過失のある事故

レベル3 ▶

基本的な防止対策で防げる事故

レベル2 ▶

ミスが原因で発生する事故

レベル1 ▶

ルール違反で発生する事故

■対応策も5段階に分ける

事故の評価によって対応策が異なりますので、下記の表に従って対応策のポイントを明確にして、それぞれ具体的な対応策を講じます。防げない事故を家族に受け入れてもらう取組は特に重要です。

	事故の質による評価	対応策のポイント
5	どんな対策を講じても防げない事故	<ul style="list-style-type: none"> ●事故が起きてもケガをしない対策（損害軽減策） ●家族にリスクを受け入れてもらう取組
4	専門知識・技術がないと防げない事故	<ul style="list-style-type: none"> ●多職種の連携によって専門知識・技術を共有する ●資格取得や研修によって専門知識の習得を促す
3	基本的な防止対策で防げる事故	<ul style="list-style-type: none"> ●危険箇所点検などの危険発見活動を行う ●標準的な事故防止対策をマニュアル化する
2	ミスが原因で起きる事故	<ul style="list-style-type: none"> ●介助ミスの原因となる介助方法のリスクを改善する ●ミスの原因となる環境要因を改善する
1	ルール違反で起きる事故	<ul style="list-style-type: none"> ●やってはいけない危険な介助方法を文書化する ●ルール違反による事故の罰則を周知徹底する

発行責任者

あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
マーケット開発部 市場開発室
担当：堀江・窪田
TEL 03-5789-6456

担当課・支社 代理店